

1 研究主題

輝け命！自他を大切にできる子の育成
－ 小牧市「生と性のカリキュラム」の取組を通して －

2 はじめに

小牧市では、平成 19 年度から「生と性のカリキュラム」(以下カリキュラムとする)を活用して、発達段階に応じた系統的な指導を実施している。このカリキュラムにより「生（人間らしくいきいきと共に生きる心）」と「性（健やかな体と命の大切さ）」を学ぶことで、「心豊かにいきいきと生きる力をもつ子の育成」を目指している。その後、子どもたちの実態や社会環境の変化を受けて改訂を行い、現在のカリキュラムは平成 27 年度から実践している。

近年の情報化やグローバル化、コロナ禍、性に関する情報の氾濫や多様性に関する問題など、急激な社会環境の変化は、子どもたちの心身の健康や考え方に大きな影響を与えている。中でも小中学生においては、スマートフォンやタブレット端末の普及により、インターネットへの依存などの生活習慣の乱れが心配される。また、多くの情報に囲まれた環境で過ごすことにより、誤った情報に惑わされたり、人間関係が希薄になったりする等の悪影響が出る恐れがある。このような社会環境の中で、心身の健康の保持増進を図るためには、自他の生命や健康の尊さを理解し大切にできる力が必要である。そのため、カリキュラムを活用して子どもたちに自他の存在価値を認識させ、自己判断・自己決定する能力を身に付けさせたいと考えた。

そこで、今までの系統的な指導はそのままに、現代的健康課題を踏まえて内容の見直しをすることとした。また、小牧市が推進している「学び合い」は、前回の改訂から取り入れているが、改めて学習方法や教師の支援について検討し、子どもたちが「生」と「性」について自ら考え、深め、見つめることができるようにしたいと考えた。

3 研究の仮説

現代的健康課題を踏まえたカリキュラムを活用し、子どもたちが学び合うことにより、心豊かにいきいきと生きる力が育まれ、自他を大切にできる子が育つであろう。

4 研究計画

令和4年度	令和5年度	令和6年度
・実態把握 ・意見集約（交換箱の活用） ・ネットモラル学習会 ・指導案検討、教材整備	・意見集約（交換箱の活用） ・授業実践（指導案検証） ・包括的性教育の観点を踏まえた指導案検討	・授業実践（前年度までの見直し） ・評価と考察

5 研究の概要

「生と性のカリキュラム実施状況調査」や、授業者・養護教諭の意見を基に、現代的健康課題を踏まえて指導内容の見直しを行った。子どもが主体的に考え、学び合うことができるよう、「考える」「深める」「見つめる」の三つの視点から指導案の検討を行った。その後、各校で授業実践を進めた。改定に際して、以下の2点に留意した。

- ① 子どもの実態や現代的健康課題を踏まえる。
- ② 「考える」「深める」「見つめる」ことができるようにする。
 - ・考える：学びたいという意欲をもち、自分事として考える。
 - ・深める：他者の価値観を受け入れながら、自らの考えを深める。
 - ・見つめる：学習したことを基に自らを見つめる。

(1) 意見集約シートの作成・活用

グループ毎に見直しを行ったカリキュラムに対して、部員全員の意見や気づきを反映できるよう、交換箱に「意見集約シート」を作成した。

(2) 改定例

ア 小学校第3学年 「メディアとのつきあい方を考えよう」

(ア) 子どもの実態や健康課題の変化

以前は子どもたちにとって、テレビやゲーム機が主なメディアであり、家族共有で利用することが多かった。しかし、現在は、スマートフォンやパソコン、タブレット端末などさまざまな機器を自分専用で持つ子どもが増え、長時間利用しやすくなっている。体調不良を訴えて保健室来室する児童の中にも、メディアを就寝前に長時間利用したことが原因と思われるケースが見られる。また、対戦型のオンラインゲームなどの利用を通して気持ちがイライラしたり、暴言を言ってしまったりなど心の健康についての指導も必要であると考えた。

(イ) 現代的な健康課題を踏まえた改定内容

	旧指導案	新指導案
主題名	テレビ、ゲームとのつきあい方を考えよう	メディアとのつきあい方を考えよう
ねらい	テレビ、ゲーム等メディアとの長時間の接触による心身の影響を知ることにより、テレビ、ゲームの暴力的な場面に見られる生命軽視の風潮やそれがもたらす情報について、正しい判断力や批判力をもつことができる。	メディアを長時間利用することによる心身への影響を理解することができる。そして、自分の日常生活を振り返り、メディアとの上手なつきあい方を考えることができる。
指導の力点	テレビやゲームのまねをして失敗した児童作文を通して、自分の日常生活を振り返らせ、テレビ、ゲーム等メディアとの上手なつきあい方を考えさせたい。	メディアを長時間利用することや就寝前に利用することによる健康への悪影響に気付かせたい。そして、自分の日常生活を振り返らせ、メディアとの上手なつきあい方を考えさせたい。

(ウ) 子どもたちが学び合うための手だてと、期待する学びの姿

	手だて	期待する学びの姿
「考える」	運動時とゲーム利用時の脳の血流の写真を提示し、メディアの影響について説明する。	脳の血流の様子という科学的な根拠から興味関心を高める。 長時間のメディア利用は、感情がうまくコントロールできない状態を引き起こし、他者への暴言につながる恐れがあることに気付くことができる。
「深める」	児童に前日の生活をワークシートのタイムテーブルに記入させ、自分の生活を振り返らせる。 生活習慣の課題や改善点について話し合わせる。	自分のメディアの利用時間や睡眠の様子を客観的に捉え、生活を見直すことができる。 メディア依存の危険性を児童が自分事として捉えることができる。
「見つめる」	どのような生活をするとういタイムテーブルを作成させる。	長時間のメディア利用がもたらす悪影響を理解し、タイムテーブルに反映させることができる。

イ 中学校第2学年 「手軽な出会いに潜む危険」

(ア) 子どもの実態や健康課題の変化

現在、ほとんどの中学生は、一人1台スマートフォンやタブレット端末を持っている。数年前に比べてさまざまなアプリケーションが普及し、知らない人とより手軽に繋がることが可能になった。生徒指導や保健室での個別相談から、子どもたちはインターネットで知り合った人と会うことに抵抗が少ないことが分かる。有意義な出会いを経験する一方で、常に事件や犯罪に巻き込まれる危険性と隣合わせの状況でインターネットを利用している。インターネットを通じた出会いに危機感をもたせ、自分を大切にする気持ちを高める必要があると考えた。

(イ) 現代的な健康課題を踏まえた改定内容

	旧指導案	新指導案
主題名	手軽な出会いに潜む危険	手軽な出会いに潜む危険
ねらい	インターネット（メール、SNS等）が発端となった事件や犯罪について知る。 性犯罪に巻き込まれない、または起こさないために、とるべき行動について知る。	インターネットが発端となった事件や犯罪について知り、性犯罪に巻き込まれないために、とるべき行動について考えることができる。

指導の力点	中学生のほとんどがインターネット（メール、SNS 等）に毎日時間を費やしている。使い方を間違えて犯罪に巻き込まれる危険性が高い。正しい判断力を身に付けさせるために、実際に起きた事件を題材にすることで、自分にも起こりうる身近な問題だと気付かせたい。	中学生のほとんどがインターネットに毎日時間を費やしている。便利で楽しい一方、使い方を間違えると、犯罪に巻き込まれる危険性が高い。手軽な出会いの事例や実際に起きた事件を題材にすることで、自分にも起こりうる身近な問題だと気付かせ、自分自身を大切にしようとする気持ちをもたせたい。
-------	---	---

(ウ) 子どもたちが学び合うための手だてと、期待する学びの姿

	手だて	期待する学びの姿
「考える」	ネット上の友人から誘いを受けたAさんがどう対応するか考えさせる。 Aさんの予想される行動とその理由をワークシートに書かせる。	ケーススタディを通して身近な事例に向き合い、具体的に考えることができる。
「深める」	自分の考えをグループで意見交換させる。 実際に起きた事件に触れて、どう行動すれば事件を防ぐことができたかを考えさせる。	他者の意見を聞き、さまざまな価値観に触れながら自分の考えを深めることができる。 事件を未然に防ぐ行動について多くの視点から自分の意見をもつことができる。
「見つめる」	本時の話し合いで知った他者の意見を踏まえ、改めて自分が感じたことを書かせる。	話し合いを踏まえて、自分自身や友達を大切にしようとする気持ちをもつことができる。

6 今後の課題

今年度は、令和4年度に見直した指導案や教材を基に、各校で授業実践を行っている。また、意見集約シートを活用したことで、養護教諭や担任等の授業者の意見を取り入れることができ、よりよい指導案となるよう検討を進めることができた。

2学期からは、ユネスコの「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」のキーコンセプトを参考に包括的性教育の観点を踏まえて、カリキュラム全体の見直しを始めている。性に関する指導において取り扱うべき内容について9年間を通して系統的に指導できるよう、検討中である。今年度の取組を継続すると共に、今後も実践を重ね、自他を大切にできる子の育成を目指していきたい。